

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
健康スポーツ 1			11337	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
殿垣 哲也	選択	1	県立高等学校教員			

授業の到達目標

本講義では、近代スポーツを教材化し、みんなが楽しめるスポーツを体験し、スポーツ文化を創造していく過程を学ぶことで、主体者としてスポーツに関わっていくことができるようにする。また、スポーツの上手い下手で固定的な縦の価値観を持つのではなく、みんなで上手くなる水平の価値観に変革する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）、A（自律）I（知性）及びS（奉仕）を養う。

授業の概要

ゴール型、ベースボール型の教材をさらに教材化し、初心者と上級者をつなぎ、みんなで楽しみ上手くなることを目指す。
ゴール型ではアメリカンフットボールを安全に配慮したフラッグフットボール、ベースボール型では3人対3人で行うベース3on3を教材として行う。

授業計画

- 1 オリエンテーション
フラッグフットボール①
基礎技術の習得
- 2 フラッグフットボール②
1対1、2対2の攻防
- 3 フラッグフットボール③
2対2の攻防
- 4 フラッグフットボール④
2対2の攻防
- 5 フラッグフットボール⑤
2対2の攻防
- 6 フラッグフットボール⑥
3対3の攻防と作戦づくり
- 7 フラッグフットボール⑦
3対3のゲーム
- 8 フラッグフットボール⑧
3対3のリーグ戦
- 9 フラッグフットボール⑨
3対3のリーグ戦
授業のまとめ

- 10 ベース3on3①
基礎技術の練習、2対2の攻防
- 11 ベース3on3②
3対3の戦略・戦術づくり
- 12 ベース3on3③
3対3のゲーム
- 13 ベース3on3④
3対3のゲーム
- 14 ベース3on3⑤
3対3のリーグ戦
- 15 ベース3on3⑥
3対3のリーグ戦
授業のまとめ

授業の方法

実技中心の授業である。
正当な事由があるときは見学とレポート提出を課す。

準備学修

スポーツに関心を持ち、ニュース、新聞、Web等でスポーツに関する情報を獲得するよう努める。日頃より運動を取り入れて健康管理に努める。

課題・評価方法、その他

毎回授業内容の記録をすること。課題と発表に対するフィードバックは授業の中で行う。
評価方法、平常点70% 定期試験30%

欠席について

規定に従う。
欠席はマイナス評価の対象とする。

テキスト

プリント配布

留意事項

運動に相応しい服装と運動用靴で臨むこと

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本文化史			11353	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2	私立中学高等学校教員（科目「社会」）			

授業の到達目標

日本史の概略を理解する。日本の伝統行事を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのE（倫理）とI（知性）とを養う。

授業の概要

時代ごとに歴史の重要事項を確認する。さらにその時代の文化に注目し、その文化を題材として取り扱った現代の文学・文化作品を鑑賞する。

授業計画

- 1 年中行事 その壱
(正月について)
- 2 年中行事 その弐
(節分・3月3日・5月5日・衣替え・賀茂(葵)祭)
- 3 年中行事 その参
(夏祭り・天神祭・祇園祭・ねぶた祭り・竿灯祭・七夕祭・花笠祭)
- 4 年中行事 その四
(7月7日・盆・風祭・十五夜・十三夜・重陽の節会・神無月・七五三)
- 5 神々の歴史
『古事記』と荻原規子『空色勾玉』を読む
- 6 縄文時代・弥生時代
たつみや章『月神の統べる森で』を読む
- 7 邪馬台国・古墳時代
森嶋外『生田川』を読む
- 8 邪馬台国のあった頃の中国(魏)
吉川英治『三国志』を読む。
- 9 飛鳥時代
池田理代子『聖徳太子』を読む
- 10 大化の改新
里中満智子『天上の虹』を読む
- 11 奈良時代
手塚治虫『火の鳥』を読む
- 12 平安時代
大和和紀『あさきゆめみし』を読む
清少納言『枕草子』を読む
- 13 鎌倉時代
小泉八雲『耳なし芳一』を読む

- 14 戦国時代
遠藤周作『叛逆』を読む
- 15 江戸時代
菊池寛『忠直卿行状記』を読む

授業の方法

講義中心の授業である。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて授業中に随時紹介する。

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

日本語〈日本語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語表現法	PC		11401	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

敬語をつかい、文章を書けるようにする。また、敬語をつかい、自己表現ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）を養う。

授業の概要

言葉を公に使用するという事は、社会的責任を負うということでもある。授業では、社会人として必要な日本語表現の常識を学ぶ。注意深く、日本語に接する訓練をする。また、書写に親しむ時間を毎回設ける。

授業計画

- 1 聞く力を養う。
- 2 質問力・雑談力を高める。
- 3 間違いやすい「敬語」
- 4 尊敬語と謙譲語を学ぶ
- 5 「敬語の種類」
- 6 「日常生活と言葉づかい」(1)
- 7 「日常生活と言葉づかい」(2)
- 8 「ビジネス社会における敬語(1)」
- 9 「ビジネス社会における敬語(2)」
- 10 学校・保育現場の保護者との話し方
- 11 「就職活動と書類」[さまざまな熟語]
- 12 「レポート」の書き方。
- 13 「誤用文と推敲の方法」
- 14 「手紙とはがき(1)」
- 15 「手紙とはがき(2)」
- 16 「ビジネス文書」[修辭法と慣用句]
- 17 「学校・保育現場における通信文」
- 18 まとめとテスト

授業の方法

演習中心の授業である。新聞投稿などを通じて、社会と繋がっていく準備をする。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。平常点70%、定期試験30%

欠席について

小テストやノートの提出は、授業当日が原則となるため、欠席するとその点数がすべて減点される。

テキスト

西尾宣明編『日本語表現法』（樹村房）

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

留意事項

演習が中心の授業となる。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

日本語〈日本語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語文章構成法			11405	II	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

他人の意見を理解し、それを要約する力をつける。また、客観的資料をもとに、自分の意見を述べる力をつける。このクラスではKAISEIパーソナリティのE（倫理）とI（知性）とを養う。

授業の概要

簡潔で的確な日本語表現の習得を目指す。表現力向上のために必要な基礎的知識を、演習のなかで体得していく。与えられた課題に対して、自分で文章を作り、それを推敲していく演習形式の授業である。読み手を意識した文章を書く練習をするため、書き上げた文章は発表する。

授業計画

- 1 <評論文>(1) 感想文と評論文とはどう違うのか。
- 2 <評論文>(2) アウトラインのたてかたを学ぶ。
- 3 <評論文>(3) 推敲の仕方を学ぶ。
- 4 <評論文>(4) 書評を書く。図書・雑誌の探し方を学ぶ。
- 5 <評論文>(5) 引用の規則を学ぶ。
- 6 <新聞投稿> 検索能力を養う。
- 7 <意見文> 他説・自説・証明といった三段構成の方法を学ぶ。
- 8 <意見文・説得文> 反論の仕方を学ぶ。予想される反論をあげ、それに反論する。
- 9 <意見文・説得文> 結論・本論・結論の三段構成の方法を学ぶ。
- 10 <小説> 語り手の位置を学ぶ。
- 11 <小説> テーマにそった短編小説を書く。
- 12 <エントリーシート> キャッチコピーを学ぶ。接近法・強調法・暗示法などを学ぶ。
- 13 <エントリーシート> ネーミングコピーの作り方を学ぶ。
- 14 <エントリーシート> 標語の作り方を学ぶ。ブレンライティング法を学ぶ。
- 15 <随筆> を書く

授業の方法

演習が中心の授業となる。コンピューター教室で、情報を検索しながら文章を作り、それを推敲していく。新聞投稿などとおして、書き上げた文章は発表していく。社会の一員としての自分の位置を理解していく。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回課題を与え、その提出を求める。提出物は教員が評価し、次週にフィードバックする。平常点70%、定期試験に変わるレポート30%

欠席について

課題の提出は、授業当日が原則となるため、欠席するとその点数がすべて減点される。

テキスト

必要に応じて授業中に随時紹介する。

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

留意事項

演習が中心の授業となる。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	a		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれる理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

- | | | | | | |
|--------------------|----|------|----|--|--|
| 1 ガイダンス | | | | | |
| 2 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 3 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 4 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 5 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 6 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 7 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 8 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 9 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 10 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 11 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 12 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 13 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 14 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |
| 15 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト | 講読 | | |

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。
また、文学作品に描かれた文化内容を考察するため、担当教員による文学作品の講読を行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

小川洋子『ミーナの行進』（2009年、中公文庫 686円）

参考図書

必要に応じて紹介する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	b		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	必修	2				

授業の到達目標

私たちの社会生活の中でことばによるコミュニケーションは欠かせないものであり、世界のあらゆる言語はその土地の文化や現代社会の課題などとも深く関わっています。ことばのあり方を探ることによって、社会や文化のあらゆる側面を探ります。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）、I（国際性）とI（知性）を養う。

授業の概要

言語と文化を中核として社会言語学とコミュニケーション論を基礎として学ぶ。授業では幅広く分野を取り扱い、言語（英語及び日本語）/文化/社会について幅広く興味に応じて対応する。授業は学生主体で行い、調査や分析方法を学びながらプレゼンテーションとディスカッションを中心とした授業を行う。

授業計画

- オリエンテーション
言語学にどのような分野があるのかを概説する。
- 発表とディスカッション
各自の興味関心があることについてクラス内で発表する。
- 参考文献を用いたディスカッション
- 参考文献を用いたディスカッション
- 参考文献を用いたディスカッション
- 参考文献を用いたディスカッション
- 参考文献を用いたディスカッション
- 参考文献を用いたディスカッション
- 参考文献を用いたディスカッション
- 参考文献を用いたディスカッション
- 参考文献を用いたディスカッション
- 参考文献を用いたディスカッション
- 参考文献を用いたディスカッション
- 参考文献を用いたディスカッション
- 個人課題の発表・ディスカッション

授業の方法

それぞれの興味関心について授業で取り扱い、発表とディスカッションを行う。学生の主体的な授業参加が必要となる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

評価は出席30％、発表30％、授業態度20％、課題20％とする。

欠席について

規定の通りとする。

テキスト

必要に応じて指示する。

参考図書

必要に応じて紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅰ	c		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

研究テーマは「観光による地方創生」で観光による地域経済の活性化を図るための仕組みについて研究する。観光と地域社会との関りから地域住民にとっても有益である「持続可能な観光」のあり方を研究する。特に訪日観光客（インバウンド）を地方へ誘客するためのマーケティングやプロモーションについての理解を深め、地域の観光消費額を上げることを主眼とする。フィールドワークを通じて調査方法を学び、発表を通じてプレゼンテーション力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

観光による地域活性化についての事例研究を行う。地域の観光資源調査（フィールドワーク）を実施準備を行い、観光地における課題と解決策を調査する。調査方法や観光地マーケティングやマネジメントを学び、観光による地域創生のあり方について考察する。

授業計画

- ガイダンス
- 観光による地方創生①
- 観光による地方創生②
- 観光による地方創生③
- 観光による地方創生④
- 観光地と地方創生⑤
- 観光地のブランド化①
- 観光地のブランド化②
- 観光地のブランド化③
- フィールドワーク準備①
- フィールドワーク準備②
- フィールドワーク準備③
- フィールドワーク準備④
- フィールドワーク準備⑤
- まとめ

授業の方法

課題テーマについてリサーチとプレゼンテーション及びディスカッションを主体に行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、課題30%、プレゼンテーション20%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

適時プリントを配布する。

参考図書

『DMO観光地経営のイノベーション』 高橋一夫著 学芸出版
『観光DMO設計・運営のポイント』 日本政策投資銀行 地域企画部著 ダイヤモンド社
『観光ブランドの教科書』 岩崎邦彦著 日本経済新聞出版

留意事項

演習は自主性、積極性が求められる。フィールドワークへの参加は必須である。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	a		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれる理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

- | | | |
|--------------------|----|--------|
| 1 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 2 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 3 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 4 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 5 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 6 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 7 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 8 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 9 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 10 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 11 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 12 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 13 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 14 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |
| 15 個人課題の研究発表・討論・講評 | 及び | テキスト講読 |

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。また、文学作品に描かれた文化内容を考察するため、担当教員による文学作品の講読を行う。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

出席状況（30%）、発表（30%）、レポート（40%）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

万城目学『梧浄出立』（2017年、新潮文庫、490円）

参考図書

必要に応じて紹介する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	a		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務			

授業の到達目標

観光関連科目のまとめとしていく。ホスピタリティ産業における戦略的マーケティングを理解し、ゼミ生個別のテーマに対してより深く研究を進めていく。個人テーマは、観光領域でマネジメントとマーケティングをキーワードとして設定する。テーマ毎に概要がまとめられることを到達目標としていく。このクラスは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

卒業研究を前提に個別のテーマに取り組む。個人研究が中心となり、成果を発表し、他のゼミ生とディスカッションをする。発表日を設定し、ゼミ長を中心に授業を進める。

授業計画

- 1 研究の進め方
- 2 研究テーマについて発表
- 3 卒業研究の書き方(研究計画について)
- 4 卒業研究の書き方(参考文献・引用文献)
- 5 個人発表と質疑応答
- 6 個人発表と質疑応答
- 7 個人発表と質疑応答
- 8 個人発表と質疑応答
- 9 個人発表と質疑応答
- 10 個人発表と質疑応答
- 11 個人発表と質疑応答
- 12 個人発表と質疑応答
- 13 研究計画書の発表
- 14 研究計画書の発表
- 15 まとめ

授業の方法

発表とディスカッションを中心に行う。

準備学修

テーマ毎に参考図書を紹介するので読んでレポートすること。

課題・評価方法、その他

課題への取り組み、レポートの評価、発表内容などを総合的に成績評価する。

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

テキストは3年次購入した研究論文の書き方を使用する。

参考図書

研究テーマ別に紹介する。
 内藤耕（2015）『サービス産業 労働生産性の革新』旅行新聞社
 内藤耕『サービス産業生産性向上入門』日刊工業新聞
 Kotler（2003）『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション
 M.E.Poter（2012）『競争の戦略』ダイヤモンド社
 Jay B. Barney（2011）『企業戦略論』ダイヤモンド社

留意事項

個別の研究テーマに取り組めます。積極的に研究課題に取り組むこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	b		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれる理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

- 1 個人課題の研究発表・討論・講評
- 2 個人課題の研究発表・討論・講評
- 3 個人課題の研究発表・討論・講評
- 4 個人課題の研究発表・討論・講評
- 5 個人課題の研究発表・討論・講評
- 6 個人課題の研究発表・討論・講評
- 7 個人課題の研究発表・討論・講評
- 8 個人課題の研究発表・討論・講評
- 9 個人課題の研究発表・討論・講評
- 10 個人課題の研究発表・討論・講評
- 11 個人課題の研究発表・討論・講評
- 12 個人課題の研究発表・討論・講評
- 13 個人課題の研究発表・討論・講評
- 14 個人課題の研究発表・討論・講評
- 15 個人課題の研究発表・討論・講評

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて配布する

参考図書

必要に応じて紹介する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	b		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれる理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

- 1 個人課題の研究発表・討論・講評
- 2 個人課題の研究発表・討論・講評
- 3 個人課題の研究発表・討論・講評
- 4 個人課題の研究発表・討論・講評
- 5 個人課題の研究発表・討論・講評
- 6 個人課題の研究発表・討論・講評
- 7 個人課題の研究発表・討論・講評
- 8 個人課題の研究発表・討論・講評
- 9 個人課題の研究発表・討論・講評
- 10 個人課題の研究発表・討論・講評
- 11 個人課題の研究発表・討論・講評
- 12 個人課題の研究発表・討論・講評
- 13 個人課題の研究発表・討論・講評
- 14 個人課題の研究発表・討論・講評
- 15 卒業研究 口頭試問

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて配布する

参考図書

必要に応じて紹介する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	c		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子	必修	2				

授業の到達目標

海外、および日本の文化や社会的事情に常に関心をもち、それらを詳しく調査、分析を行い考察することが重要である。たとえ日本文化に属する研究内容であっても、現在のようないろんな情報社会においては、海外の資料や情報が欠かせない。各自が定めたテーマについて調査をし、裏付けとなる根拠やデータを明確にして、論理的に文章として表現し、発表する。最終的に卒業研究としてまとめる。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、In（国際性）を養う。

授業の概要

各自の興味のあるテーマについて、国内のみならず海外の資料も入手して、丁寧な調査を行い、論理的思考を身につけ、卒業研究を書き上げる。授業では、各自の研究について発表とディスカッションを行うので授業準備を万全に行うことが必須である。

授業計画

- 1 イントロダクション
研究発表
- 2 卒業研究の発表とディスカッション
- 3 卒業研究の発表とディスカッション
- 4 卒業研究の発表とディスカッション
- 5 卒業研究の発表とディスカッション
- 6 卒業研究の発表とディスカッション
- 7 卒業研究の発表とディスカッション
- 8 卒業研究の発表とディスカッション
- 9 卒業研究の発表とディスカッション
- 10 卒業研究の発表とディスカッション
- 11 卒業研究の発表とディスカッション
- 12 卒業研究の発表とディスカッション
- 13 卒業研究の発表とディスカッション
- 14 総まとめ
口頭試問について
- 15 総まとめ

授業の方法

各自が選んだテーマについて、国内、および海外の書物、文献、論

文などの資料を収集し、正確に読解する。各自で論を構成できるよう論理的思考が身につける。授業では、各自の発表後にクラス内でのディスカッションを行う。

準備学修

Webを参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点 30％、発表 40％、レポート 30％

欠席について

出席を重視する。欠席1回について平常点より4点減点する。規定に従う。

テキスト

必要に応じて配布する。

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加し、発表と毎回のレポート提出が必須である。出席を重視する。平常点には、授業参加・貢献度、および出席状況の評価が含まれる。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎科目〈基幹基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本文化論			13273	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

日本文化、特に古典芸能を理解し、その概要を語れるようになる。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）とI（知性）を養う。

授業の概要

芸能は地域に根差し発展する。まずは、各芸能を、身近なものとして考察したい。そして、現代において、各芸能がどのような発展をしているかを、ときに映像資料を用いて確認する。随時関西で上演される芸能を紹介するので、受講中に実際に劇場に足を運んでもらいたい。

授業計画

- 落語 その老 「寿限無」「芝浜」
- 落語 その式 英語落語の可能性・「鷲取り」
- 落語 その参 創作落語：グリム童話「死神の名づけ親」と落語「死神」
- 落語 その四 女性落語家の活躍 落語「花嫁修業」
- 着物の基礎知識 その老 浴衣の着付け
- 着物の基礎知識 その式 帯結び
- 歌舞伎 その老 現代歌舞伎：シネマ歌舞伎の可能性「阿弓流為」
- 歌舞伎 その式 海外で最も人気の演目「連獅子」・「勧進帳」
- 歌舞伎 その参 日本作品を海外へ：和事歌舞伎の新演出 故中村勘三郎の「夏祭浪花鑑」ニューヨーク公演
- 歌舞伎 その四 海外作品を日本へ：NINAGAWA歌舞伎シェークスピア「十二夜」
- 狂言 「附子」大藏流茂山狂言と和泉流野村狂言
- 能 その老 能「鉄輪」と野村萬斎主演映画「陰陽師」と丑の刻詣り
- 能 その式 能「鉄輪」における、シテ方・ワキ方・狂言方
- 文楽 その老 「曾根崎心中」
- 文楽 その式 三谷幸喜による「其成礼心中」

授業の方法

講義が中心となるが、その他に古典芸能を鑑賞する。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回、授業内小レポートを提出する。このレポートは、次の週に教員が評価して返却する。平常点70%、定期試験30%

欠席について

毎回、授業内小レポートを提出するため、欠席の場合はこのレポート点も減点となる。

テキスト

随時紹介する

参考図書

随時紹介する

留意事項

実際に古典芸能に触れる時間を持つ。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
コミュニケーションと文化			13419	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	必修	2				

授業の到達目標

ことばの意味と文化の関係、様々なかたちで伝えられることばから読み取ることができるその意味や文化を学び、ことばの意味と文化の関係についての関心を高める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

私たち人間はこれまでことばと共に進化し、文化を形成してきた。つまり私たちの生活や文化からことばを切り離すことは出来ない。私たちが普段当たり前に目にし、耳にしていることばの意味を探りそこにある文化について共に考えたい。また、同時に異文化理解へのアプローチの一端として、日英の比較を元に文化の類似点や相違点をことばの側面から探り、他文化への関心を深めたい。

授業計画

- イントロダクション
- 文化について
- 言語とは何か
- コミュニケーションの性質と要素
- 言語コミュニケーション
- 非言語コミュニケーション
- 振り返り
- グローバル化とメディア①
- グローバル化とメディア②
- 異文化交流の意味
- 差異とアイデンティティ
- 多文化共生①
- 多文化共生②
- 振り返り
- 試験

授業の方法

講義形式をとる。また、毎回テーマにあわせた質問事項を提示し、それに対する回答を必須とする。それを元に共に考え、意見交換をする。積極的な授業への参加が求められる。

準備学修

事前学習では、授業の最後に出題される課題について考えてくること。また事後学習では、テキストや配布資料を元に、授業内容を必ず復習すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき出席点より4点減点する。遅刻・早退も減点対象。

テキスト

池田 理知子・埜幸枝 編著『グローバル社会における異文化コミュニケーション―身近な「異」から考える』（三修社）
適宜ハンドアウトを配布する。

参考図書

授業内で適宜紹介する

留意事項

クラスへの積極的参加、予習・復習が求められる。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童文学	ET	13501	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
宮副 紀子／箕野 聡子	選択	2	私立中学高等学校教員(科目「社会」)(箕野) 私立中学高等学校教員(科目「英語」)(宮副)		

授業の到達目標

初等国語の一貫として、児童文学を学ぶことにより、文化におけるこども観を理解するとともに、文学作品の読解力を養うことを目的とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。(箕野)

すぐれた児童文学は普遍的テーマを有しており、子どもだけでなく大人にも深い感動を与えてくれる。海外の代表的な児童文学を鑑賞することにより、様々な視点から文学を読解する力を養うことを目的とする。KAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)、In(国際性)を養う。(宮副)

授業の概要

日本の近現代児童文学を取り上げる。日本の児童文学は、初めは大人の側に立ったものであった。そこには、発表当時の日本文化が反映され、大人が子どもに求めた理想がわかりやすい言葉で表現されている。児童文学がそのような観念から脱し、子どもの世界を獲得していく様子を考察する。(箕野)
英米の児童文学の文化と歴史を学びながら英米の代表的な児童文学作品について考察する。また英米以外ではフランスの1作品を鑑賞する。(宮副)

授業計画

- 1 巖谷小波「日本昔噺其一桃太郎」
- 2 「金太郎」・「酒呑童子伝説」
- 3 宮沢賢治「銀河鉄道の夜」
- 4 有島武郎「一房の葡萄」
- 5 与謝野晶子「きんぎょのおつかい」
- 6 岡田淳「童退治の騎士になる方法」
- 7 日本の現代児童文学について
- 8 英米の児童文学の歴史
- 9 ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』
- 10 ナーサリーライム(マザーグース)
- 11 L.M.オルコット『若草物語』
- 12 R.L.スティーブンソン『宝島』
- 13 L.F.ボーム『オズの魔法使い』
- 14 ペアトリクス・ポター『ピーターラビットのおはなし』と代表的な絵本

15 アントワーン・ド・サン＝テグジュペリ『星の王子様』

授業の方法

講義中心の授業である。必要に応じて映像鑑賞も行う。(箕野)
講義と発表形式で授業を実施する。講義だけでなく、学生の発表、およびグループディスカッションにより授業をすすめる。(宮副)

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験(レポート)30%で評価する。また、毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。(箕野)

平常点30% レポート(2回)60% 提出物等10%、で評価する。(宮副)

レポートは2回であるが、ミニレポートの提出も2～3回求める。

欠席について

規定に従う。

テキスト

随時、プリントを配布する。(箕野)

『英米児童文化 55のキーワード』白井澄子、笹田裕子編著 ミネルヴァ書房、および、プリントを配布する。(宮副)

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
インターンシップ(海外)		13967	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
佐伯 瑠璃子	選択	2			

授業の到達目標

海外で就業体験をすることで、自国の文化のみならず他国の文化をも理解し、異文化との交流を通してグローバルな精神を培い、相手の考えに耳を傾け、自分の意見を発信しながらコミュニケーション能力を高める。実践的な活動を通し、将来の職業選択に備え自らの適性・能力を知る機会とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)、In(国際性)とS(奉仕)を養う。

授業の概要

興味のある学生は登録のうえ、選択するプログラムをメールで連絡すること。

下記プログラムはコロナ後開催が確約されていないものもある。留学関係の情報を掲示板及び、4月と10月に開催される留学説明会にて確認すること。

【アシスタント・ティーチャープログラム】
英語圏の幼稚園や公立小学校で、専任教員のアシスタントとして子どもたちの指導に携わる。

開催国及び開催時期の情報は随時更新される。

・対象学科・学年：ET学科、PC学科2年次生以上

・期間：春季休暇中または夏季休暇中10日間以上

【イベントコース：まつりインハワイ】

「まつりインハワイ」の運営業務、「旅行管理主責任・取得研修」プログラム。

・対象学科・学年：ET学科2年次生以上

・期間：6月中旬の1週間と国内における3回の事前研修

・現在新型コロナウイルスの影響により開催未定。

授業計画

- 1 事前学習
- 2 事前学習
- 3 現地実習
- 4 現地実習
- 5 現地実習
- 6 現地実習
- 7 現地実習
- 8 現地実習
- 9 現地実習

10 現地実習

11 現地実習

12 現地実習

13 現地実習

14 現地実習

15 ポートフォリオの提出(日報、レポートなど)及び発表

授業の方法

各自に設定されたプログラムに従うインターンシップ

準備学修

原則としてTOEIC400点以上を取得し、プログラム参加に必要な最低限の英語力をつけておくこと。

課題・評価方法、その他

課題は委託機関の基本方針に基づいて実施され、詳細は委託機関及び本学による。

各々のインターンシップは原則以下のプログラムによって構成される。

①2～3回の事前学習(英語研修や実習準備など)

②現地実習

③ポートフォリオの提出(日報、レポートなど)と発表

欠席について

事前学習は必ず出席しなければならない。
欠席となった場合は必ず補講に出席すること。

テキスト

適宜紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
比較文化論			13830	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

世界情勢を的確に把握し、広い視野、幅広い知識と洞察力を持って積極的に行動できる人材が求められている。異文化を理解し、自文化が発信できる人材の育成を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を身につける。

授業の概要

本授業では、日本と日本を取り巻くグローバル社会の文化を比較し、歴史的、風土的、地政学的観点から、自文化と異文化に対する幅広い知識と洞察力を養う。同時にそれを活用して、自身が企画した文化比較についてプレゼンテーションを行い、自己発信力を育成する。

授業計画

- 1 <人魚>をテーマに、アンデルセン(ヨーロッパ)・ディズニー(アメリカ)・小川未明(日本)の表現の違いを考察する
- 2 <民話>をテーマに、南洋諸島と戦前の日本委任統治の歴史的背景を考察する
- 3 <怪談>をテーマに、小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)が描いた日本を考察する
- 4 <絵本>、<人形>をテーマに、物語に託されたそれぞれの国の文化的背景を考察する
- 5 <移民>をテーマに、日本からのブラジル移民に注目し、当時の政府の政策と神戸港の対応を考察する
- 6 <MANGA>をテーマに、日本の漫画の発展と世界進出について考察する
- 7 <レビュー>をテーマに、宝塚歌劇におけるフランスのレビューの影響を考察する
- 8 <留学>をテーマに、森鷗外「舞姫」に描かれた、明治初期のドイツと日本の社会状況の相違について考察する
- 9 宝塚歌劇「MAIHIME」を考察する。(原作:森鷗外「舞姫」)
- 10 塩野七生「小説 イタリア・ルネサンス 1 ヴェネチア」に描かれた、イタリアとトルコの文化背景の違いを考察する
- 11 宝塚歌劇「ヴェネチアの紋章」を考察する。(原作:塩野七生「小説 イタリア・ルネサンス 1」ヴェネチア)
- 12 プレゼンテーション 発表授業
- 13 プレゼンテーション 発表授業

14 プレゼンテーション 発表授業

15 <ディズニー映画>に注目し、アメリカが描く東アジアについて考察する。

授業の方法

教員の講義と学生のプレゼンテーションとによる参加型授業

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回ノートの提出を義務づける。提出されたノートは、教員が指導してフィードバックする。出席状況(30%)、ノート評価(30%)、発表(20%)、レポート(20%)により評価する。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて紹介する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
インターンシップ(国内)			13969	Ⅱ	春	30
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

将来、観光関連企業(旅行会社・ホテル・観光局など)及その他の企業に従事することを考えている者が就業体験により、自己の適正を知り、働くことの本質を学ぶ。インターンシップ参加に際してのエントリーシート作成、業界研究や企業コンプライアンスについて理解することを目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのS(奉仕)とA(自立)を養う。

授業の概要

インターンシップは、事前研修と就業体験(インターンシップ)及び体験発表からなる。事前研修では業界研究や企業コンプライアンスなどについての講義を行い、グループワークでその理解を深めていく。またインターンシップ参加へのエントリーシート作成を行う。就業体験は夏休みに実施され、インターンシップ期間は受け入れ先により5日~2週間となる。尚、体験発表は10月上旬(秋学期・土曜日)に実施する。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 業界研究
- 3 企業研究
- 4 エントリーシート作成(自己PR)
- 5 インターンシップの目標設定
- 6 就業体験①
- 7 就業体験②
- 8 就業体験③
- 9 就業体験④
- 10 就業体験⑤
- 11 就業体験発表

授業の方法

グループワークを中心とした講義と就業体験及びプレゼンテーションを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題は就業体験レポートとプレゼンテーション
評価は平常点30%、就業体験50%、プレゼンテーション20%
就業体験は5日間で35時間とする。

欠席について

事前研修の欠席が多い場合は、インターンシップ参加を取り消す場合がある。
就業体験欠席者は単位認定されない。

テキスト

随時プリントを配布する。

参考図書

講義内で紹介する。

留意事項

インターンシップ受入先は、主に観光・ホスピタリティ産業が対象である。それ以外にキャリアセンター扱いの企業も認める。学生自身が就業体験先を選定した場合は事前審査を経て認める。(最低5日間の就業体験が必要)
大学がインターンシップ先を提供できない場合がある。履修者が30名を超えた場合は抽選とするので、第1回目オリエンテーションは必ず参加すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
神戸学			13841	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

地元神戸の成り立ちを知り、その特徴がどのように文化的資源として活用されているかを考える。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

神戸を舞台とした文学作品に触れながら、神戸文化の特徴を学ぶ。観光資源としての価値に注目するため、各自神戸の町に出てレポートし、発表を行う。

授業計画

- 神戸と海の物語
神戸のミステリー作家、陳舜臣の作品を中心に、神戸居留地の歴史を振り返る。
- 神戸異人館物語(1)
上田早夕里「トラットリア・ラファエノ」を読み、現在の異人館通りの様相や、神戸のスイーツやパン、洋食文化に触れる。
- 神戸異人館物語(2)
宮本輝「花の降る午後」・妹尾河童「少年H」を読み、雑居地に暮らし、戦争を乗り越えた外国人たちの文化を考察する。
- 阪神間モダニズム
小川洋子「ミーナの行進」を読み、神戸から影響を受けて発展した、阪神間のモダニズム文化を考察する。
- 神戸の発展を支えた女性たち
玉岡かおる「負けんとき ヴォーリス満喜子の種まく日々」・「お家さん」を読み、神戸の発展を支えた女性の生き方を考察する。
- 神戸トアロード物語
稲垣足徳「星を造る人」を読み、トアロード発信の神戸モダニズムについて考察する。また、堀辰雄「旅の絵」を読み、外から見た神戸文化について考察する。
- 神戸新開地物語
横溝正史のミステリーを読み、新開地出身のミステリー作家が描く労働者の町神戸の文化発展を考察する。
- 川崎造船所と神戸の町
原田マハ「美しき愚かものたちのタブロー」を読み、神戸の経済を支えて来た川崎造船所の神戸経済への影響力を考察する。カワサキワールド・神戸海洋博物館にも触れる。
- 1923年関東大震災と神戸

谷崎潤一郎「細雪」、山本周五郎「須磨寺附近」を読み、関東大震災によって神戸にやって来た人々が、どのような文化交流をなしていたかを考察する。

- 神戸と坂の物語
神戸には、坂があるからこそ生まれた物語がある村上春樹「ノルウェイの森」・「5月の海岸線」を読み、神戸の海岸線埋め立てによる開発を考察する
- プレゼンテーション 神戸文化についての発表
- プレゼンテーション 神戸文化についての発表
- プレゼンテーション 神戸文化についての発表
- 映画に登場する神戸の風景
有川浩原作の映画「阪急電車」における神戸ロケの意義について考察する。
- 神戸灘区青谷周辺の物語

授業の方法

前半は講義形式となるが、後半は、各自が取材した神戸についての発表を行い、それについてのディスカッションを行う。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。出席状況(30%)、ノート評価(30%)、発表(20%)、レポート(20%)

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて随時紹介し、プリントを配布する。

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ビジネス中国語			13832	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
王 媽	選択	2				

授業の到達目標

中国語の発音、基礎単語と基礎文法を学び、練習問題を通して、中国語の基本表現を身につける。中国人の生活習慣を紹介し、中国文化への理解を広げる。自己紹介が流暢にできるように繰り返し練習する。中国語会話を楽しく勉強して、コミュニケーション能力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

中国語学習の中に一番大事な部分は発音である、正確な発音を覚えるために、発音練習以外に聞くの練習もたくさんする。中国語の基礎単語と基礎文法をいろいろな形で練習して覚える。異文化を理解するために、中国の文学作品及び唐詩を紹介する。中国の歌も一曲歌えるように挑戦する。中国語検定試験問題の指導を行う。

授業計画

- 第1課～第4課ポイントのまとめ（あいさつする、名前を尋ねる等）
- 第5課～第8課ポイントのまとめ（予定を尋ねる、場所を尋ねる等）
- 「自己紹介」を学ぶ
- 第9課、出来事を尋ねる①
- 第10課、出来事を尋ねる②
- 第11課、希望を尋ねる
- 第12課、行き方を尋ねる
- 第13課、経験を尋ねる
- 第9課～第13課の復習
- 第14課、相手の都合を尋ねる
- 第15課、比較する
- 第16課、条件・情報を尋ねる
- 第17課、進行状況を尋ねる
- 第18課、別れを告げる
- 授業のまとめ・テスト

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。毎回「発音の指導」、「語彙、文法と文型の説明」と会話練習を行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

大学の規定に従う。

テキスト

「できる・つたわる コミュニケーション中国語」 岩井伸子、胡興智著 白水社

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童文学	PC	17437	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
宮副 紀子／箕野 聡子	選択	2	私立中学高等学校教員(科目「社会」)(箕野) 私立中学高等学校教員(科目「英語」)(宮副)		

授業の到達目標

初等国語の一貫として、児童文学を学ぶことにより、文化におけるこども観を理解するとともに、文学作品の読解力を養うことを目的とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。(箕野)

すぐれた児童文学は普遍的テーマを有しており、子どもだけでなく大人にも深い感動を与えてくれる。海外の代表的な児童文学を鑑賞することにより、様々な視点から文学を読解する力を養うことを目的とする。KAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)、In(国際性)を養う。(宮副)

授業の概要

日本の近現代児童文学を取り上げる。日本の児童文学は、初めは大人の側に立ったものであった。そこには、発表当時の日本文化が反映され、大人が子どもに求めた理想がわかりやすい言葉で表現されている。児童文学がそのような観念から脱し、子どもの世界を獲得していく様子を考察する。(箕野)

英米の児童文学の文化と歴史を学びながら英米の代表的な児童文学作品について考察する。また英米以外ではフランスの1作品を鑑賞する。(宮副)

授業計画

- 1 巖谷小波「日本昔噺其一 桃太郎」
- 2 「金太郎」・「酒呑童子伝説」
- 3 宮沢賢治「銀河鉄道の夜」
- 4 有島武郎「一房の葡萄」
- 5 与謝野晶子「きんぎょのおつかい」
- 6 岡田淳「童退治の騎士になる方法」
- 7 日本の現代児童文学について
- 8 英米の児童文学の歴史
- 9 ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』
- 10 ナーサリーライム(マザーグース)
- 11 L.M.オルコット『若草物語』
- 12 R.L.スティーブンソン『宝島』
- 13 L.F.ボーム『オズの魔法使い』
- 14 ペアトリクス・ポター『ピーターラビットのおはなし』と代表的な絵本

15 アントワーン・ド・サン＝テグジュペリ『星の王子様』

授業の方法

講義中心の授業である。必要に応じて映像鑑賞も行う。(箕野)

講義と発表形式で授業を実施する。講義だけでなく、学生の発表、およびグループディスカッションにより授業をすすめる。(宮副)

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験(レポート)30%で評価する。また、毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。(箕野)

平常点30% レポート(2回)50% 提出物等20%、で評価する。(宮副)

レポートは2回であるが、ミニレポートの提出も2~3回求める。

欠席について

規定に従う。

テキスト

随時、プリントを配布する。(箕野)

『英米児童文化55のキーワード』白井澄子、笹田裕子編著 ミネルヴァ書房、および、プリントを配布する。(宮副)

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもと言葉		17439	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
森 晴美	選択	1	公立幼稚園教員、私立保育所保育士		

授業の到達目標

(1) 人間の言葉の意義と機能では、人間の言葉の意義と機能を理解し、言葉の発達過程とその特徴について理解すること (2) 言葉に対する感覚を豊かにする実践では、言葉の感覚を豊かにする指導について基礎的な知識や、言葉の楽しさや美しさに気づき、言葉を育む基礎的に実践を身に付ける (3) 言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財と実践について、その意義について説明できるように、児童文化財を教材とした基礎的な実践を身に付ける。以上を目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的な知識を身に付ける。人間らしさの特徴でもある言葉の意義と機能を理解し、幼児の言葉を豊かに育み、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識と技能を身に付ける。

授業計画

- 1 人間の言葉とその機能及び意義
- 2 子どもの言葉の発達過程
- 3 言葉に対する感覚を豊かにすることの重要性
- 4 言葉に対する感覚を豊かにする保育の実践(情報機器及び教材の活用を含む)
- 5 子どもの言葉を豊かに育む児童文化財とその意義
- 6 子どもの言葉を豊かに育む絵本・物語・紙芝居
- 7 子どもの言葉を豊かに育む教材を使った保育の実践(情報機器及び教材の活用を含む)
- 8 子どもの言葉による伝え合いと小学校教育への接続
- 9

授業の方法

講義とディスカッション、発表を取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出や教材提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点、遅刻1回につき1点の減点とする。

テキスト

文部科学省『幼稚園教育要領解説』平成30年 株式会社フレーベル館
厚生労働省『保育所保育指針解説』平成30年 株式会社フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』平成30年 株式会社フレーベル館

参考図書

太田光洋、古相正美、野中千都『保育ニュー・スタンダード 保育内「言葉」一話し、考え、つながる言葉の力を育てる』2021年 株式会社同文書院 その他適宜配布する

留意事項

日頃から、絵本に親しみ読書量を増やすように努めること。